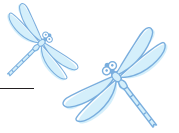


プールのヤゴ救出作戦！



ヤゴってどんな生き物かご存知ですか？プールにヤゴがいるって知っていましたか？

河川や池など水辺環境の少ない豊島区では、一年中水を張っているプールがヤゴなど昆虫たちの貴重なすみかになっているのです。プールの中では様々な生き物がつながりを持っているのです。

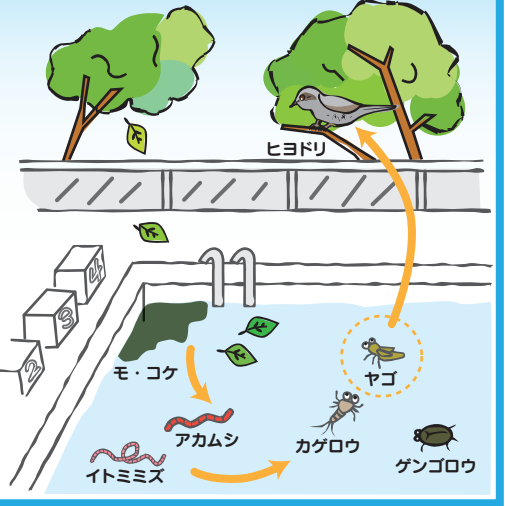
6月に多くの小学校では、プールの授業を前に清掃を行います。何もしないままでは、水の中の小さな命たちは流されてしまいます。そこで、清掃前のプールで子どもたちが小さな命を救うため「ヤゴ救出作戦」が始まったのです。初めは、保護者の有志が始めた小さな活動ですが、やがて他の学校にも広がっていき、10年を経た今では区内のほとんどの小学校で取り組まれるようになりました。

その中の1校、駒込小学校へ「エコのわ」取材チームがお邪魔してきました。当日は、初夏の陽差しに負けないくらい元気な3年生が、ヤゴ救出にチャレンジしました。先生、児童のほかに、ヤゴリーダーやお手伝いの保護者が参加します。ヤゴリーダーとは、救出作戦を行う学校に派遣され、作戦の指揮をとる区民ボランティアです。まずは、ヤゴリーダーからヤゴの生態や救出の際の注意事項などのお話があり、いよいよプールへ。

1人ずつ慎重にハシゴを下りると、水の冷たさに思わず歓声(?)があがります。全員がプールに入り、網を手にするといよいよ作戦開始!あちらこちらから、「いたよ!」「ねえ、見て!ヤゴ!」と声が上がります。次々にヤゴが救出されていきます。最初は恐る恐る手を出していた子どもたちも、慣れるに従って積極的になり、「ヤゴ、かわいいね!」「オレ、5匹目!」などうれしそうに報告してくれるようになりました。

プールの中の生き物のつながり

プールの中では絵のような「食べる・食べられる」の関係があります。



インタビュー!

参加した3年生、先生、お母さんたちに感想を聞いてみました。

Q ヤゴ救出作戦はどうでしたか?

3年生「面白かった!」
「ヤゴの他にも色んな生き物がありました。」

3年生「楽しかった。ヤゴかわいいです。」



ヤゴリーダーの説明を聞く子どもたち



「みんな、しっかりヤゴを救出してね!」「はーい!!!」



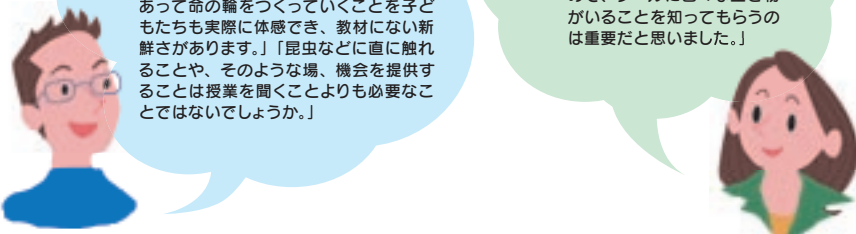
「ヤゴいたよ!」「ほんとだ!!」

最後はローラー作戦です。子どもたちがプールの片側に集まって一列になり、端から端へと中腰で歩きながら残ったヤゴを救出します。隣との間をあけず、息を合わせてみんな最後まで頑張ってくれました。プールから上がると、再びヤゴリーダーのお話。飼育の方法、ヤゴからトンボへ羽化する様子など説明があり、みんな真剣に聞き入っていました。無事にトンボになって、空へ飛び立てると良いですね。

この活動は、ヤゴリーダー、保護者、学校、豊島区環境政策課がお互いに協力し合って、環境学習の一環として行われています。ヤゴの救出を通して、子どもたちには生き物がすむ身近な環境に気づき、命の大切さ、命のつながりを感じてほしい、という思いで毎年続けられています。

先生「たくさん生物がいてお互いに関係しあって命の輪をつくっていくことを子どもたちも実際に体感でき、教材にない新鮮さがあります。」「昆虫などに直に触れることや、そのような場、機会を提供することは授業を聞くことよりも必要なことではないでしょうか。」

保護者「都会にいと、なかなか生き物にふれあう機会がないので、プールに色々な生き物がいることを知ってもらうのは重要だと思いました。」



息を合わせて、最後まで頑張ってくれました

ローラー作戦